
紅ノ死神

夏騎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紅ノ死神

【Nコード】

N7306K

【作者名】

夏騎

【あらすじ】

何回も見る謎の夢。

彼女はずっと、夢に出てくる。

紅ノ死神は、いったい何故、僕を呼ぶのだろうか。

序章 第0話 赤い道

真っ暗な道にポツン、と俺は立っていた。

ジージーと、

ノイズ
雑音が響いている。

「またこの夢か…いい加減飽きたな…」

ブツブツいいながら、“いつもの”赤い道を待つ。

五分ほど立っていると、赤くて細い道がじわじわとインクのように溢れてくる。

「さ、今日もいるのか？死神ちゃん」

赤い道を一步一步、ゆっくり辿って行く。

すると目の前に、藍色の扉が現れた。

「失礼しますよつと…」

キイッと扉を開く。

『……………また来たの』

「よく言いますよ。また貴方が呼んだの？」

『…望みは？』

「ない」

『そんなはず無い。私のところに来るものは、いつも欲で溢れていて…それで』

「だから、僕は家族も兄妹も、何もかも失いました。欲しいと言えは…楽に死ねる能力？」

『…戯言でしょ。キミはそんな人じゃない』

紅い瞳でこつちを睨む少女。
彼女の名は、“死神梓音^{シニガミシオン}”。

「じゃ、もう時間なんで」

『…次に来たらクロス』

「ご勝手に」

後ろに振り返って
向こうを見ずに手を振る。

『…堂本^{ドウモト}…武^{タケル}……興味深々……かな』

序章 第0話 赤い道（後書き）

今回の登場人物紹介

「堂本 武」
ドウモト タケル

「死神 梓音」
シニガミ シオン

第1章 第1話 登場人物（駒）

「ねね、たっ君もそう思うよね?？」

「えっ?」

教室。

三階の一番端。

私立共学高校の二年五組の教室。

話しかけてきた彼女は、エフモト リンコ榎本凜己。

茶髪のセミロングでいい感じに日焼けしている。

化粧もナチュラルでばくない。

綺麗な藍色の瞳で僕の欲で汚れた瞳を下から覗いている。

「んゝ、話ちゃんと聞いといてよゝ」

「ゴメン…で、何?」

「ん?別に何にも言ってないよゝ」

「…はあ」

可愛い僕の幼馴染。

「もー、溜息なんてたっ君らしくないゝ」

「凜己は僕をどう見ているんだ…」

「んゝ…可愛い下僕？」

「はぁ…」

「あ、また！」

「はぁぁぁあ！…っ」と

「あーもう五月蠅ーいっ！…！」

「あ、凜己あぶ㇏」

遅かった。

スパーン

と後ろから凜己が叩かれる。

「いったたたた…なんだよもう！」

「アンタね…またプリント出してないでしょ」

「えへ 悪い？」

「悪い」

彼女はクラス委員長の奈々倉瞳。ナナクラ ヒトミ

かなゝり美人でモッテモテ。

まあ凜己もモテてるケドも、コイツは半端じゃない。

黒髪のスレートロングで黒い瞳。

「確かにモテるはずだ…」ボソッ

「「え？何（んか）いった）??」」

「いえ」

「そ。で、アンタもアンタよ」

「何か？」

「何この健康診断結果」

ビシッと人差し指でさされたプリントには、
僕の健康診断結果が。

「あゝみるなよゝ」

「寝不足気味なんだって？なんかへんな夢でも見てるのか、そうだと？凶星だろ!？」

「やゝん、たつ君のエッチゝ」

ススス…と椅子を僕から遠ざける凜己。

「人聞きの悪いこというなよ…こっちだって困ってんだよゝ」

「どんな夢なの？」

「死神が出てくる夢」

「もうすぐ死ぬか。いや、もう頭は死んでるな」

いつもながら酷いな瞳。

「お前はもう、死んでいるー」

楽しそうに叫ぶな凜己。

「死神って言っても物騒なもんじゃなくて、かわいいんだよ」

「は？」

「瞳ちゃん、嫉妬しないよ」

「微塵もしてない」

「可哀想なたっ君 自分でふつといて振られちゃったね」

「黙れ」

「で、続き」

「あ、ちよつと待って。おいその金髪馬鹿。コソコソしてないで出て来い馬鹿」

「馬鹿馬鹿言っくなよ…」

柱から出てきたのは、

金髪金眼ヤロー。

アホ毛付き一（笑）

「笑うな」

「あらやだいつ君。心の声まで読めちゃった？」

「キモイ。喋んな堂本」

彼の名は神藤伊織。
シンドウイオリ

「いつ君ドウドウ」

「俺は馬じゃね〜」

「あら、伊織君。今回も身長、残念だったわね」

「オメーがでけーんだよ！！」

ちなみに身長準。

凜己く伊織く瞳く僕

「はあ〜…まあその馬鹿には勝って良かったわ」 伊織

「馬鹿っていうな馬鹿いつ君〜！！」 凜己

「はいはい、2人とも馬鹿だからね？」 瞳

「お前に言われると皆傷つくぞ瞳」 僕

「あらそう？」

成績準は、

凜己 伊織く僕く瞳

『やっと…やっと揃った…私の…駒』

第1章 第1話 登場人物（駒）（後書き）

今回の登場人物紹介

「堂本 武」

「榎本 凜己」

「奈々倉 瞳」

「神藤 伊織」

「？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7306k/>

紅ノ死神

2010年10月10日01時38分発行